スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

徳島県徳島市

自 治 体 名 ： 徳島県徳島市
担 当 課 名 ： 徳島市教育委員会　体育保健給食課
電 話 番 号 ： 088-621-5425

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	192㎢
人口	242,618人
公立中学校数	15校
公立中学校生徒数	5,438人
部活動数 （運動部活動のみ）	139部活
地域クラブ活動数	4クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

直近10年の中学生徒数の推移について、徳島県全体では-19%であるのに対し、本市は-10%である。市の生徒数は、県全体と比較すると緩やかであるものの、減少傾向である。改革実行期間（令和8～13年）における市生徒数を本課で試算してみると、約-11%であった。本市でもこの先、少子化は確実に進んでいく予想である。

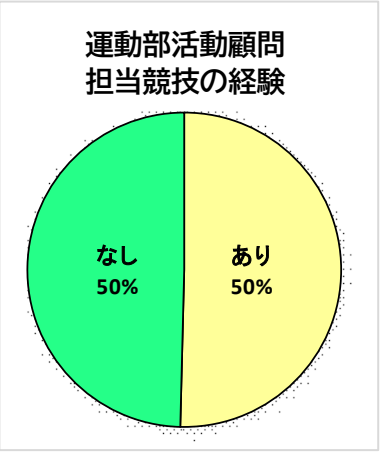
市内には、市立中学校が15校あり、生徒の約6割（3,250人）が学校の運動部に所属している。 市内全体で139の運動部があり、大規模校では18、小規模校では2と、学校規模（生徒数）によって設置部活動数は様々である。自校に生徒が希望する部活動がない場合や、部員数の偏り等で単独でチームを編成できない場合には、拠点校方式による部活動や合同部活動で生徒の活動環境を確保している。

顧問については、多くの学校で、複数顧問体制をとっているが、自身が競技経験のない部活動を担当している教職員は全体の約50%となっている。未経験競技顧問の精神的負担軽減や教員の働き方改革を図るため運動部活動指導員の配置を行っているが、学校が希望する競技の指導者が見つからなかったり、候補者自身の仕事の規定等で指導員となることができなかったりと、指導員の確保が難しい現状がある。

本市では令和5年度からの3年間、「休日の地域スポーツクラブ活動」として実証事業を実施してきたが。「運営主体の確保」、「人材の確保」、「移動について（安全面・手段）」、「受益者負担の在り方」など、地域展開の完了までには、まだまだたくさんの課題がある。

中学校生徒数の推移（直近10年）

	H27～R7 （直近10年）	備　考
徳島県	-19%	令和7年度 教育便覧（徳島県教育委員会） 児童・生徒数の推移 数値より計算
徳島市	-10%	令和7年度 教育要覧（徳島市教育委員会） 園児・児童・生徒数の推移 数値より計算

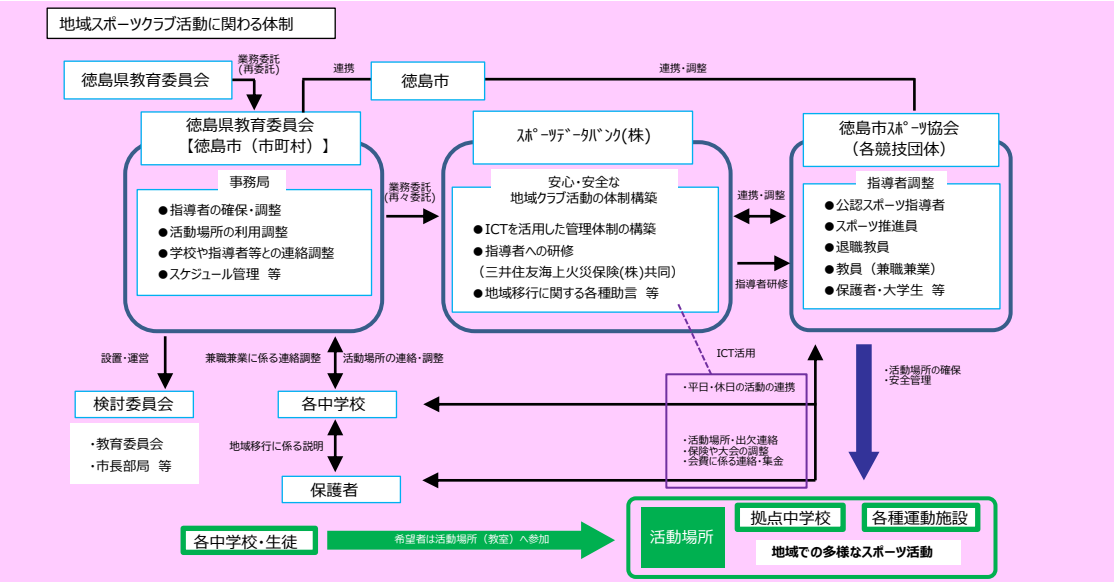


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（体育保健給食課）

・各競技団体等との連携（活動場所の調整・業務の連絡等）

・運営事務局（指導者の確保や調整・学校や指導者と連絡調整・スケジュール管理等）

・学校との連携（兼職兼業等連絡調整・各種情報交換・周知説明・協力依頼等）

◉首長部局（文化スポーツ振興課）

・各種スポーツ団体との連携・調整　・公共施設の活用等調整

年間の事業スケジュール

月　日	取　組　（　内　容　） …検討委員会　…学校関係　…教室関係
5月13日	・徳島市・名東郡中学校長会でライフル射撃体験教室参加募集配布依頼
5月21日	・生徒（保護者）にライフル射撃体験教室参加募集配布
6月2日	・第1回地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会
6月13日	・徳島市・名東郡中学校長会で事業内容説明・協力依頼
6月20日	・第１回徳島県部活動の地域移行推進協議会（オンライン）開催／県教委主催
6月28日	・「ライフル射撃体験教室」開催／徳島市ライフル射撃場
7月7日	・徳島市・名東郡中学校長会で取組状況説明
7月15日	・生徒（保護者）に「保護者宛文書」「地域クラブ活動・参加募集パンフレット」配布
７月下旬	・卓球教室会場校の学校訪問（会場視察・打合せ等）
8月1日	・指導者（卓球）打合せ・研修／卓球協会事務所
9月13日～1月17日	・「卓球教室」開催【５ブロック（東部・西部・南部・北部・中部）／各会場12回程度】
9月・10月	・徳島市・名東郡中学校長会で取組状況説明
10月11日～1月31日	・「ライフル射撃教室」開催／徳島市ライフル射撃場
10月28日	・第2回徳島県部活動の地域移行推進協議会（オンライン）開催／県教委主催
11月29日	・「野球体験教室」開催／応神中
11月・12月・1月	・徳島市・名東郡中学校長会で取組状況説明
2月2日	・「第3回徳島県部活動の地域移行推進協議会（オンライン）開催／県教委主催
2月4日	・第2回地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会
2月・3月	・徳島市・名東郡中学校長会で報告

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		4クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		3クラブ
全体の指導者数	50人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
卓球教室	徳島市卓球協会	卓球	全57回 休日 月２回程度	主に午前中	1年69人 2年50人 3年5人	9月～1月	28人	3人 （内、兼務２人）	100円/回	大会参加なし
ライフル射撃体験教室	徳島市ライフル射撃連盟	ライフル射撃	6月28日(土) 1月31日(土)	9:30-12:00 13:00-15:30 13:00-15:30	1年25人 2年11人 3年30人	6月28日(土) 1月31日(土)	13人	3人 （内、兼務2人）	300円/回	大会参加なし
ライフル射撃本教室	徳島市ライフル射撃連盟	ライフル射撃	・平日　8回 ・休日　8回	16:30-19:00 9:30-12:00	1年5人 2年4人	10月～1月	3人	3 人 （内、兼務2人）	2,400円/年	大会参加なし

2.実証内容と成果

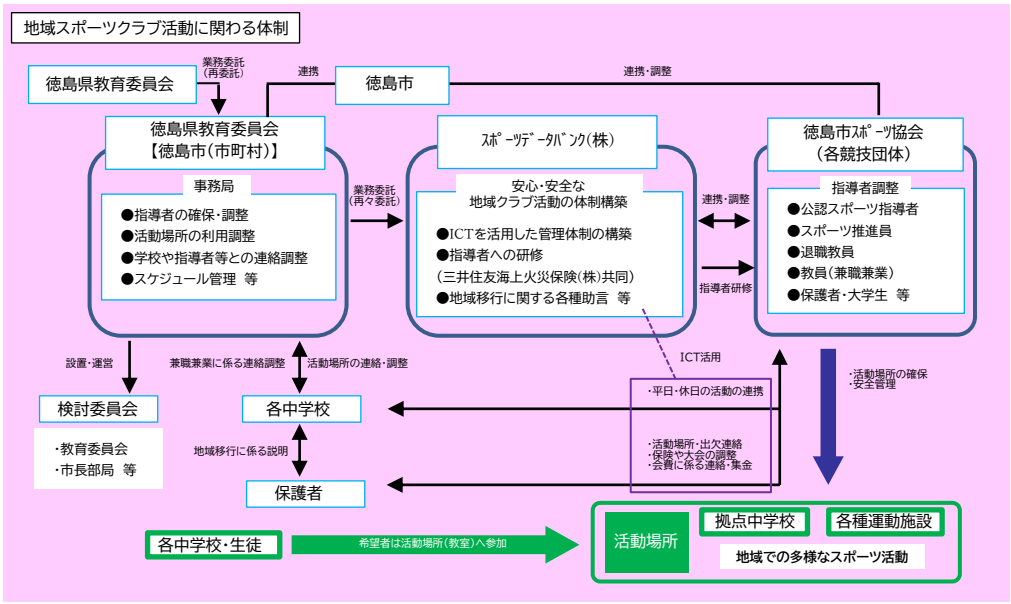
スポーツ庁

主な取組例

●卓球教室　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	地域クラブ活動 卓球教室
期間と日数	9月13日 ～1月17日 月2回程度
指導者の主な属性	徳島市卓球協会
活動場所	城西中学校・富田中学校・ 津田中学校・加茂名中学校・ 八万中学校・南部中学校・ 川内中学校・応神中学校・ 附属中学校
主な移動手段	各自（自転車・保護者送迎）
1人あたりの参加会費等	100円/回
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●主任指導者　1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

■『地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会』を2回開催し、実証事業について協議した。
■徳島市スポーツ協会と連携し、各競技団体に協力を依頼して指導者確保や派遣・活動場所や活動機会の確保等を行った。
■徳島市・名東郡中学校長会と連携し、生徒・保護者への事業周知、学校施設使用についての依頼をした。
■「安全・安心な運営体制の構築」のため 、運営面全般をスポーツデータバンク（株）に業務委託した。

第１回地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会（６月２日開催）
○今年度の事業の進め方について協議
○決定事項
①実証期間（R5･6･7）の事業内容の検証のため、R5･6と同じ体制で運営する。
②卓球教室は、活動内容はR6と同様とするが、R6の課題解決にむけた試みを実践する。
③ライフル射撃は、体験教室だけでなく、部員を募集し、平日１回・休日１回のクラブ活動を実施する。
④部活動に繋がらない競技を実証事業の対象から除外する。
⑤これまで成果のあった卓球・ライフルを深化させる。

徳島市・名東郡中学校長会との連携
■運営全般（安全面の配慮、受益者負担金額など）について協議
■卓球教室の会場校選定（意向調査）
■卓球教室の会場校との打合せ （学校訪問・体育館視察・卓球台等備品確認・施錠確認）
■実施状況の報告
■実施するなかで生じた課題があれば協議

各教室について競技団体との連携
■本事業についての説明
■指導者登録依頼・研修
■日程・会場調整

取組の成果

■参加生徒アンケートにおいて「指導者の配慮の上、安全安心な活動ができたか」について、『できた』が97%であった。
■参加生徒保護者アンケートの「安全安心面の対応についての評価」については『とてもよかった・まあまあよかった』が92%、また、「地域クラブ活動の満足度」については、『とても満足・満足』が89%であった。
■指導者は運営管理アプリで生徒の出欠予定の確認や、保護者への活動報告の送信を実施できた。

運営管理アプリ


出欠確認


終了・活動報告

（Bandアプリ画面）

今後の取組における課題

■受皿となる運営主体の確保
■新規指導者の発掘
■令和8年度から始まる「改革実行期間」の地域展開推進に向けて、新たな体制整備や制度設計が必要

課題への対応方針

■「改革実行期間」における徳島市の地域展開推進にむけて、新たに協議会を設置する。この協議会には、スポーツ関係者だけでなく、文化活動関係者も含める。
■受皿となるクラブの開拓のため、認定制度の制度設計を進める。
■指導者の派遣元として、スポーツ協会以外の選択肢も含めるなど、体制の整備についても新協議会で協議する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

■スポーツデータバンク（株）と連携し、指導者の資質向上のため、指導者に対し、eラーニングによる研修を実施した。

■スポーツデータバンク（株）と連携し、「指導者マニュアル」を各競技団体に配布し、研修を実施した。

■人材確保に向け、県の運動部活動指導者人材バンクに照会をかけた。また、教職員が地域クラブ活動の指導者になる場合の兼職兼業について校長会で説明し、募集を実施した。

取組の成果

■参加生徒アンケートにおいて、「活動の満足度」は、『とても満足・満足』が97%だった。また、「指導者の配慮の上、安全安心な活動ができたか」について『できた』が97%であった。

■参加生徒保護者アンケートの「安全安心面の対応についての評価」では、『とてもよかった・まあまあよかった』が92%、「地域クラブ活動の満足度」については、『とても満足・満足』が89%であった。
「指導者に求めること」として『ｽﾎﾟｰﾂ活動の楽しさを伝えること』が59%、『専門的な指導』が34%であった。

■県の人材バンク照会では、マッチングが上手くいかず、配置には至らなかった。

■兼職兼業で指導者登録をした教員は1人であった。

■指導者は、教室開始までにeラーニング受講を必須とした。スポーツデータバンク（株)は、受講状況を把握し、未受講者に受講を促す連絡を行った。

【eラーニング】

研修テーマ
1．自然災害への対応
2．救急蘇生法一次救命措置と熱中症
3．部活動における防犯
4．コンプライアンスの重要性とハラスメントの防止
5．子どものメンタルヘルス　不調と対応
6．個人情報の取扱い

（1テーマ約15～20分／確認テストで振り返り）



今後の取組における課題

■参加生徒アンケートの「学校部活動が地域の活動へ移行することへの不安点」では、『どんな指導者から指導を受けられるのか』が20%であった。

■参加生徒保護者アンケートの「今後、学校部活動が地域クラブ活動へ移行する場合、期待すること」では、『専門的な指導が受けられる』が73%
「不安なこと」では、『指導者はどんな方が担当するのか』が31%『勝利至上主義にならないか』が15%であった。

課題への対応方針

■指導者の質の保障については、クラブ認定の制度設計をする中で、認定条件に指導者の研修は必須であることやコンプライアンスについて明記する。

■参加者募集案内等に、本事業の指導者は研修を受けた上で指導に当たっていることを周知する内容を盛り込む。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

■『地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会』を開催し、実証事業について協議した。

〔検討委員〕
・徳島市スポーツ協会会長・徳島市体育振興公社理事長
・徳島市名東郡中学校校長会会長・徳島市中学校体育連盟会長
・徳島市文化スポーツ振興課・徳島市教育委員会

■徳島市スポーツ協会と連携し、各競技団体に協力を依頼して指導員確保や派遣・活動場所や活動機会の確保等を行った。

■徳島市名東郡中学校長会と連携し、事業内容全般について協議・学校施設使用の意向調査・生徒への周知依頼等を行った。

■実施競技団体と、詳細打ち合わせを行った。

取組の成果

■『地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会』では委員それぞれの立場からの意見を聞き、実証事業最終年の今年は、「中高部活動にない競技の教室を実施しないこと」・「これまでの評価が高い卓球とライフルは深化させること」を事業の方針とした。

■新たに実施可能な競技団体はなく、新規競技の開拓には至らなかった。

■意向調査で、卓球教室の会場として学校施設を使用可能と回答があった全ての学校を卓球協会代表と事務局が訪問し、実施に向けた打ち合わせを行った。施設の鍵の管理を協会に任せてもらえたので、教職員が施設管理のために出勤する必要がなくなった。

■ライフル射撃教室については、体験教室の希望者が100人を超え、生徒保護者の関心の高さが再確認できた。ライフル射撃連盟と指導者派遣・会場の確保等を調整し、新規事業として本教室（平日8回・休日9回）を実施することができた。

今後の取組における課題

■年度末の校長会では、現体制では今以上の地域展開・部活動改革の推進が望めないのではないかという声が上がった。

■新規の競技開拓ができなかった。

課題への対応方針

■「改革実行期間」における徳島市の地域展開推進にむけて、新たに協議会を設置する。

■指導者の派遣元として、スポーツ協会以外の選択肢も含めるなど、体制の整備についても新協議会で協議する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

■県立城ノ内中等教育学校、鳴門教育大学附属中学校、佐那河内村立佐那河内中学校の3校は、校長会や中体連の中央ブロックの他、様々な教育活動・行事等で交流しているため、徳島市立中学校15校に加えて本事業の対象とした。

■市立学校以外の3校は、それぞれ設置者が違うが、本事業に関しては、徳島市教育委員会が運営するものとした。

取組の成果

■佐那河内中学校の生徒の参加はなかった。

■参加生徒アンケートの「今回、地域クラブ活動に参加した理由」として『合同での実施であり学校を越えた交流ができるため』（14%）、「参加した活動の良かった点」として『新しい友達ができた』（15%）であった。

■参加生徒保護者アンケートにおいて「今後、学校部活動が地域クラブ活動で移行する場合の期待」として『新しい友達ができる』（38%）であった。

■教職員の意見として「他校生との交流があると生徒指導面の負担が増えるのではないか」と心配する意見もあった。



今後の取組における課題

■卓球教室については、安全面・移動距離の面から、自校以外が会場の時は参加しない生徒が一定数いた。

■参加生徒保護者アンケートの「学校部活動が地域クラブ活動に移行する場合の不安な点」について『会場までの交通手段』が53%で最多だった。

■本市には電車が通っておらず、バスの本数も限られており、中学生の移動手段としては、自転車か保護者の送迎が一般的である。費用面から、大型タクシーの利用も難しい。

課題への対応方針

■生徒・保護者ともにできるだけ移動の負担が少ない会場や地域クラブの発掘を進める。

■認定地域クラブの設定条件を整え、地域人材によるクラブ立ち上げを支援する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

◆ライフル射撃　体験教室から本教室へ発展

取組事項








ライフル射撃 体験教室

- ■6月28日(土)　/　徳島市ライフル射撃場
- ■60人参加（午前の部30人・午後の部30人）
- ■参加費 300円　現地現金払い または クレジットカード払い
- ■指導者（会社員：ライフル射撃連盟）
- ■指導者に加え、城西高ライフル射撃部の生徒がサポート

取組の成果

■応募者多数のため、予定を変更して２部制とし、定員を2倍にした。
【経緯】当初定員30人で募集　→　119人の応募　→　午前の部30人・午後の部30人に変更　→　抽選で30人・30人を決定

■体験教室参加者アンケートで、満足度は94%だった。

⇩クラブ活動に発展

●本教室の案内
応募119人のうちの中学1・2年生へライフル射撃教室
「本教室」の案内〔案内 9/16・教室開始 10/11〕

⇩抽選漏れした生徒対象に体験教室を開催

●ライフル射撃体験教室
- ■1月31日(土)　/　徳島市ライフル射撃場
- ■参加者：10名
- ■参加費 300円　現地現金払い



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

ライフル射撃　本教室

取組事項

ライフル射撃教室Ａ

■8回開催〔10/11(土)・10/29(水)・11/19(水)・11/22(土)・12/10(水)・12/13(土)・1/14(水)・1/24(土)〕
■参加者：4名（城西中1・津田中1・南部中1・国府中1）

ライフル射撃教室Ｂ

■8回開催〔10/22(水)・10/25(土)・11/12(水)・11/15(土)・11/26(水)・11/29(土)・12/20(土)・1/21(水)〕
■参加者：5名（徳島中1・上八万中2・川内中1・北井上中1）

■場所：徳島市ライフル射撃場
■参加費：2,400円　一括先払い（クレジット払い・振込）
■指導者：会社員（ライフル射撃連盟所属）
■活動時間：水曜日16:30～19:00　・　土曜日9:30～12:00
■送迎は保護者




取組の成果

■休日だけではなく平日（水曜日）の活動も実施することができたが、平日は出席率が下がった。（水…61%・土…75%）
■保護者から送迎の負担の声はなかった。
■当初は予定がなかったが、活動のまとめとしてＡＢ合同記録会を1/31（土）に実施した。→
城西高ライフル射撃部1年生と一緒に試合形式で実施。高校生は立射、中学生は枕撃ち（座位・固定）
■複数の参加者から、教室終了後もライフル射撃を本格的に習いたいという声が上がった。



今後の取組における課題

■ライフル射撃教室指導者の勤務先である会社のスポーツ事業部で、「ライフル射撃クラブ」（自走型）の立ち上げを検討。

課題への対応方針

■令和8年度も7年度と同様に徳島市主導でライフル射撃体験教室を実施し、体験教室応募者に「ライフル射撃クラブ」を周知する等の支援を行う。
「ライフル射撃クラブ」は、本事業をきっかけとして地域に新しくできる、まさに地域展開したクラブなので、市としても応援したい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

◆実証事業における集金運用の改善

参加費徴収方式の変更
昨年度までの「後払い方式」では徴収漏れが発生していたため、今年度は「その都度、現金で支払う方式」に変更。

◆実証事業における低廉な参加費設定

学校施設を利用する場合は1回100円（卓球・軟式野球）、それ以外（民間施設等）は1回300円（ライフル射撃）に設定。今年度の状況を見ながら、来年度以降の受益者負担額の適切な価格帯、また最終的に目指すべき受益者負担の形（公金負担や外部資金）を検討するものとした。



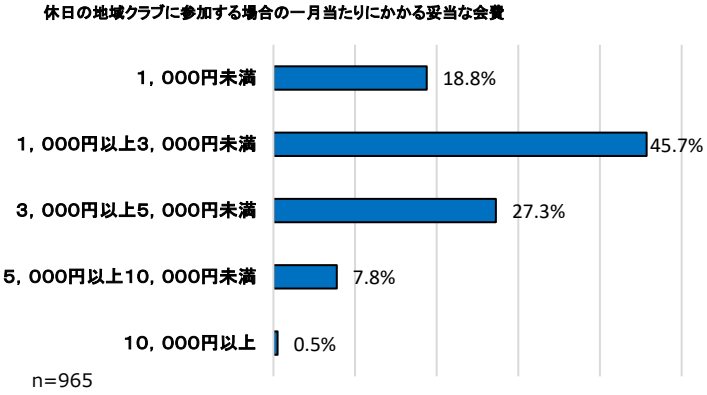
取組の成果　今後の取組における課題　課題への対応方針

1．徴収スキームの見直しによる確実な集金の実現

昨年度は『後払い方式』を採用していたが、代金をうまく徴収できないという課題があった。この反省を踏まえ、今年度は『その都度、現金で支払う方式』に変更した。この改善により、支払い状況が可視化され、徴収ミスをなくすことができた。しかし、現金集金は確実性が高い反面、指導者が指導業務に加えて現金の授受・管理・記録を行う必要があり、事務的な手間が増大している。これは本来の指導に集中しにくい環境を生んでおり、地域クラブ活動の『指導の質』に悪影響を及ぼすリスクを孕んでいる。来年度以降は、事務局および指導者の負担軽減と利用者の利便性向上を図るため、ICT（一元管理システム）を活用した集金事務の自動化・効率化を検討する。これにより、確実な徴収体制を維持しつつ、将来的な『自走化』に向けた持続可能な運営体制の構築を目指す。

2．保護者アンケートからみる現状の課題

今年度の調査では、妥当と考える会費が「月額500円～1,000円」とする回答が最多となった。これは昨年度の「2,000円～3,000円」から大きく下落しており、現在の低価格設定（1回100円 or 300円）に保護者が慣れてしまっている可能性が考えられる。この状況を改善するため、保護者に受益者負担を求めるための周知を徹底すること、また経済困窮世帯への支援の必要性が浮き彫りとなった。今後国庫での支援の可能性や民間資金等の可能性も議論する必要がある。



3．令和8年度に向けた方針：地域クラブ活動「自走化」に向けた段階的な費用適正化

今回の実証事業では参加費を低額に設定していたが、市の持ち出し額の限界や将来的な「自走化（公金に頼らない運営）」を見据え、来年度は現状の単価にプラス100円程度の増額を検討し、将来的には国が示す低廉な価格帯（1,000～3,000円程度/月4回活動）程度への引き上げを段階的に目指す。また、単なる値上げではなく、指導者の質を保証する「認定制度」とセットにすることで、「質の高い指導への適正な対価」として保護者に説明するプロセスが明確化していく。あわせて保険料の負担の妥当性について検討していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

■学校施設を有効に活用できるよう校長会で説明し、各学校の現状や課題を踏まえ、情報交換しながら協力依頼を行った。

■卓球教室の活動場所については、卓球部を設置している12の中学校を5ブロックに分け、それぞれのブロックの中学校体育館を会場とした。同一ブロックで、体育館使用可能な学校が複数ある場合は、会場をローテーションすることとした。

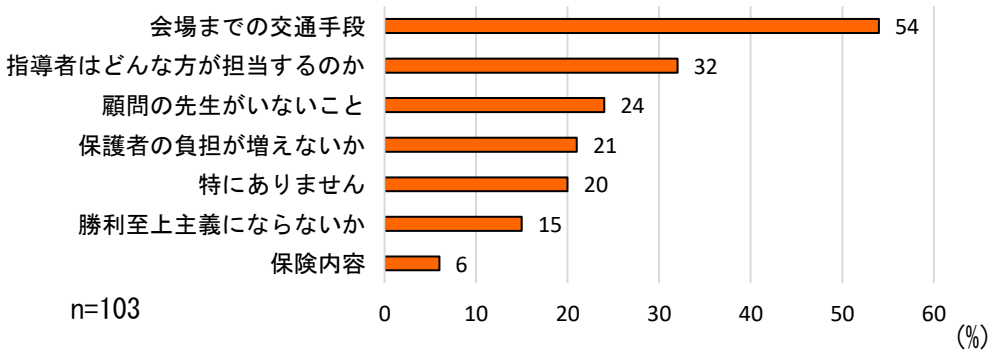
■学校施設を活用するにあたっては、卓球協会の指導者が学校訪問し、体育館の施錠・備品等の確認を行い、卓球部顧問と練習日時を調整できるように連携を密にとれる体制を構築した。

取組の成果

■施設の鍵の管理を協会（指導者）に任せてもらえたので、教職員が施設管理のために出勤する必要はなかった。

■ブロック割りについては、自転車で移動可能な近隣の中学校を同ブロックとしたが、会場校の生徒だけが参加する場合が約10%あった。

部活動が地域クラブに移行する場合の不安（複数回答可）



■保護者アンケートにおける「部活動が地域クラブに移行する場合の不安（複数回答可）」では、『会場までの交通手段』が一番多く54%だった。

今後の取組における課題

■生徒の移動負担の面から、会場としては、「通学している学校もしくは自転車での移動が可能な学校施設」、または「交通の便が良い徳島駅周辺の公共施設」が望ましい。

課題への対応方針

■会場については、各学校および関係諸機関の理解と協力が不可欠となる。今後も活動場所確保のため連携しながら推進していきたい。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

■　本年度も『地域クラブ活動推進体制整備事業（実証事業）検討委員会』を2回実施した。第1回の検討委員会で今年度の事業の進め方を協議し、2回目の委員会で事業の検証を行った。

■　今年度の実証の柱の一つの「これまでの評価が高い卓球とライフルは深化させること」は達成できた。

ライフル射撃では、体験教室だけでなく、本教室を実施することができた。

卓球教室は、熱中症対策のため開始時期を遅らせたり、参加費の集金方法を変更したりするなど、昨年度の反省点を生かすことができた。

■　新たに実施可能な競技団体はなく、新規競技の開拓には至らなかった。

■　運営面全般を民間業者に委託した。保護者や指導者への連絡、謝金等の会計関係、指導者研修など、民間のリソース、ノウハウを活用し、安心安全な運営ができた。

また、委託業者からは、次年度から始まる「改革実行期間」における本市の地域展開推進について、国や他自治体の情報提供・体制整備や制度設計のアドバイスもいただいた。

●成果の評価

■安全安心な運営

生徒・保護者それぞれのアンケート結果で「安全安心な運営」の評価はたいへん高かった。事故やけが、生徒間のトラブル等がなく事業を終了できたことが大きな要因ではあるが、指導者が活動中の安全配慮を徹底したことに加え、コンプライアンス意識をもった指導がなされたことも、生徒だけでな く、保護者にも安心感をもってもらえる要因となったと考えている。

■高い満足度

アンケートでは、生徒（96%）、保護者（89%）と、高い満足度だった。指導者アンケートでは、「生徒が積極的に活動 してくれたので、うれしかった。」という回答もあり、指導者にとってもおおむね満足のいくものであったようである。

■教員の働き方改革

卓球部顧問へのアンケートにおいて、休日の活動を部活動でなく卓球教室とした顧問は、全員が負担軽減を実感している。

●今後に向けて

■「改革実行期間」における徳島市の地域展開推進にむけて、新たに協議会を設置する。協議会では、新たな運営主体開拓につながる認定制度の制度設計や、指導者の派遣元として、スポーツ協会以外の選択肢も含めるなど、体制の整備について協議したい。

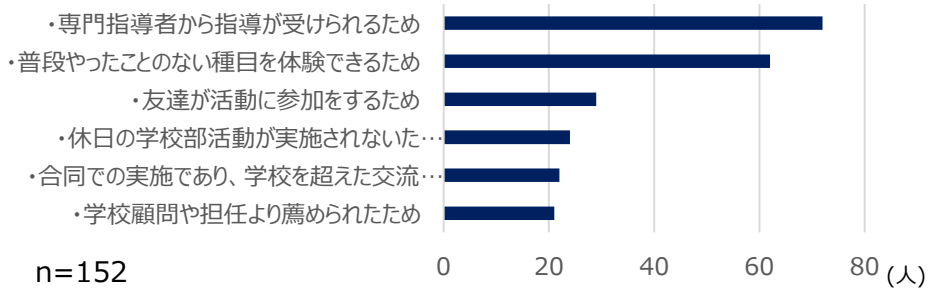
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

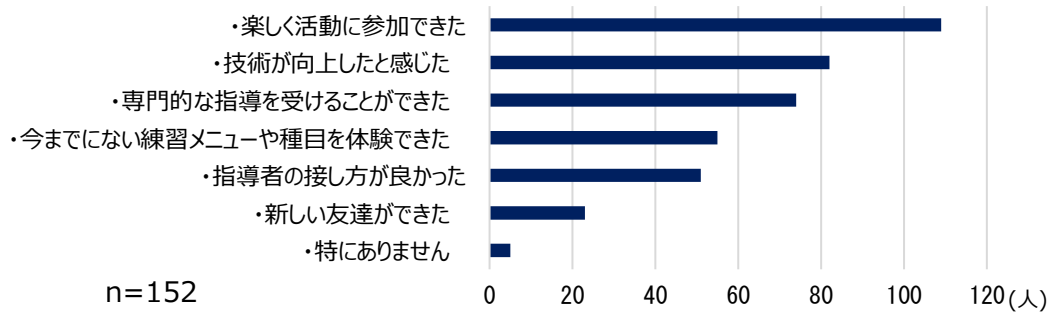
【参加者アンケート】（１５２名／回答）

参加理由（複数回答可）



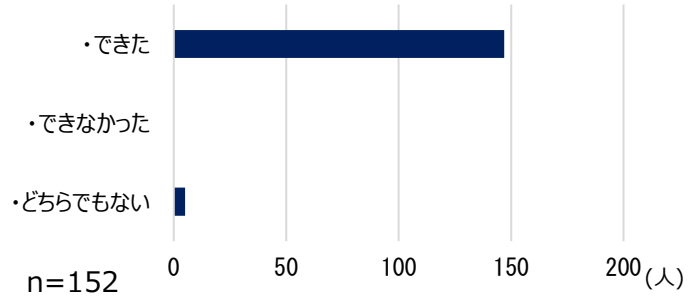
【地域クラブ活動（体験教室）／参加理由】
①専門的指導が受けられるから　②やったことがないことを体験できる　③友達が参加するから

良かった点（複数回答可）



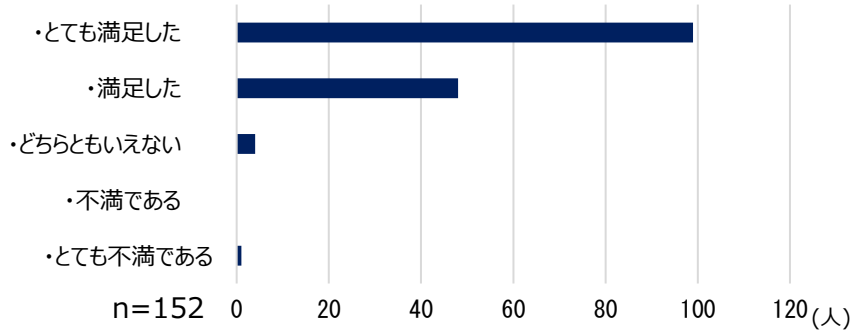
【活動のよかった点】
①楽しく活動に参加できた　②技術が向上したと感じる
③専門的な指導を受けることができた

安心安全な活動



【安全安心な活動】できた96.7%

満足度

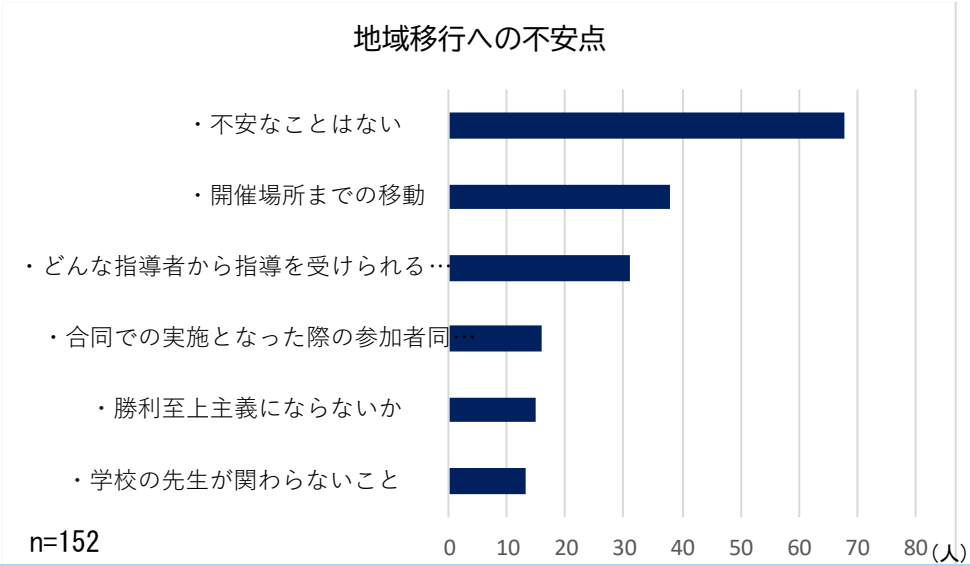


【活動の満足度】とても満足・満足96.7%

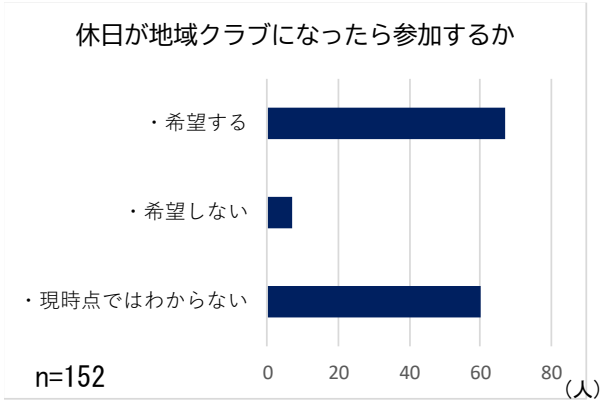
2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声



【学校部活動が地域クラブ活動へ移行することへの不安点】
①不安はない　②開催地までの移動　③どんな指導者から指導をうけられるのか



【今後の参加】参加する44%　現時点では不明40%

【生徒の意見(卓球教室)/感想】

◎指導者が安全に配慮してくれているので活動しやすかった
◎コーチに丁寧に課題を教えてもらって技術を向上させられた
◎卓球教室を通じて強くなれるのでもっと卓球教室をしてほしい
◎たくさんの友達と楽しくできた
◎部活では練習しないことができた
◎学校では受けられない専門的な指導が受けられた。
◎技術の向上や他の人との交流で楽しさを感じた。
◎他校の子と関われる機会が出来て楽しかったです
◎部活動でゲームをする際、教室での経験を生かせた。
◎試合でも勝てるようになった。
◎個々で色々と教えてくれた。
◎部活動をしていなくて運動をあまりしなかったから、この機会に運動ができた。

【生徒の意見(卓球以外の教室)/感想】

◎初めてのライフル射撃とても楽しかった。また機会があれば参加したい。
◎高校に入ったらライフル射撃部に入ってみたいです。楽しかったです。
◎指導者がていねいに教えてくれた。（野球体験・ライフル）
◎新しい友達と野球ができた。
▲少し待ち時間が長かったため改善してほしい（ライフル体験）

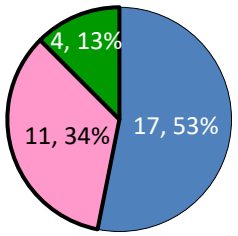
2.実証内容と成果④

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

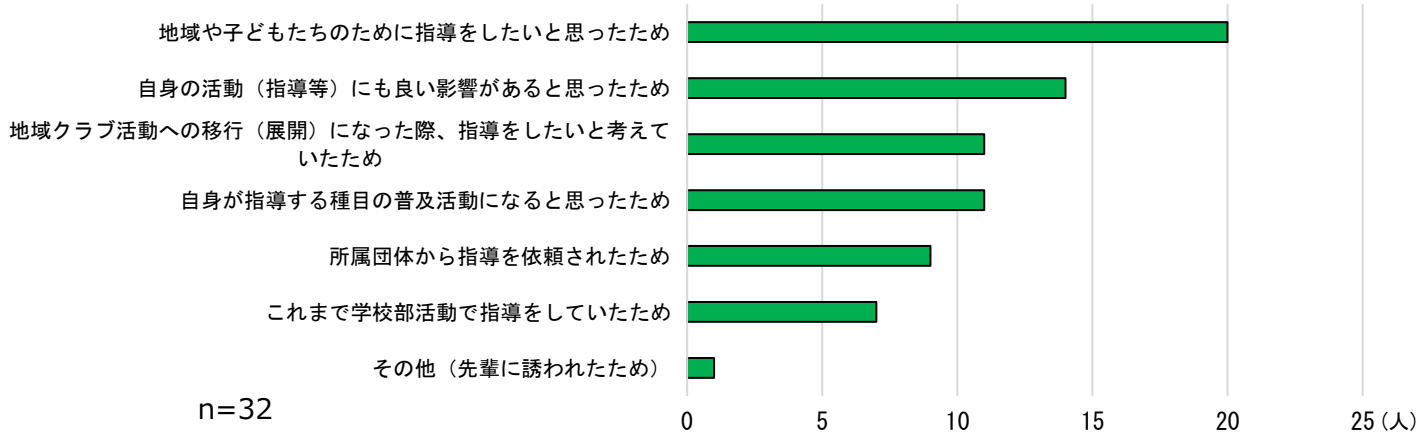
【指導者アンケート】（３２名／回答）

年齢



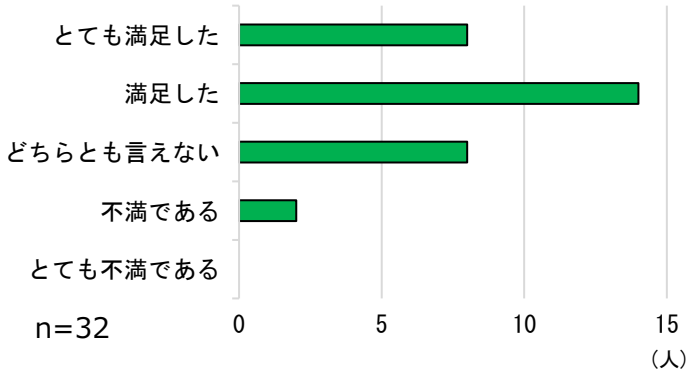
■50歳以上 □29歳以下 ■40代

指導理由（複数回答可）



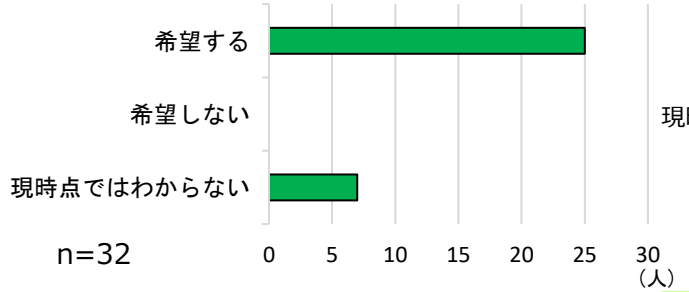
【地域ｸﾗﾌﾞ活動（各教室）で指導頂いた理由】
①地域の子供たちのために指導をしたいと思ったから ②自身の活動（指導）にも良い影響があると思った

満足度



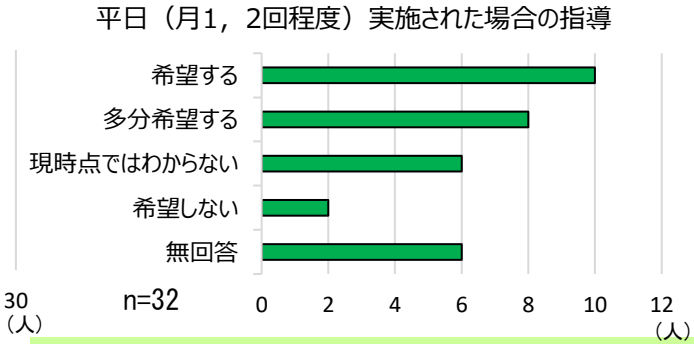
【指導における満足度】
とても満足した・満足した68.7%

今後も休日の指導を希望するか



【今後の休日の指導希望】
☆希望する78.1%
★希望しない0%

平日（月1，2回程度）実施された場合の指導



【平日（月1，2回程度）実施する場合の希望】
☆希望する・たぶん希望する５６．３%
★希望しない6.3%

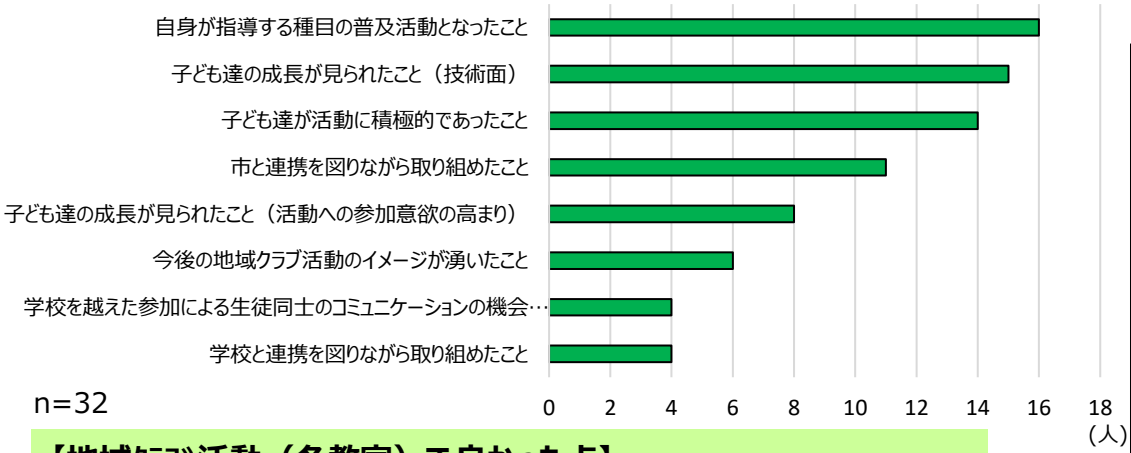
平日の指導者確保の難しさ

2.実証内容と成果⑤

スポーツ庁

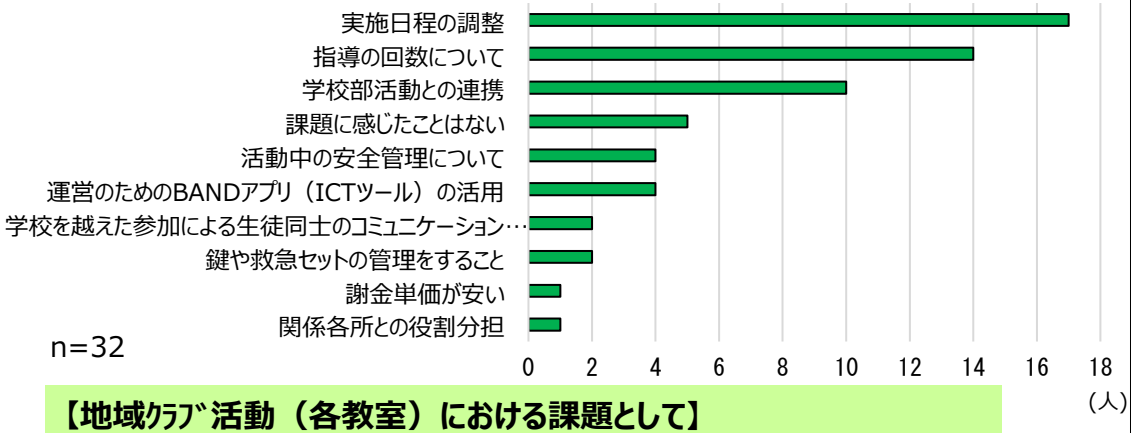
アンケート結果・参加者/関係者の声

良かった点（複数回答可）



【地域ｸﾗﾌﾞ活動（各教室）で良かった点】
①指導する種目の普及活動になった　②子供の成長（技術面）　③子供が積極的だった

課題（複数回答可）



【地域ｸﾗﾌﾞ活動（各教室）における課題として】
①実施日時の調整　②指導の回数　③学校部活動との連携

【指導者の意見（自由記述）】

◎生徒も指導者も積極的に活動していた。

◎子供の成長を身近に見ることができていい刺激になった。

◎生徒たちは技術的にも精神的にも成長できたと思います

◎貴重な機会をいただき、ありがとうございました。全体としてとても有意義な時間であったと感じています。
今後、指導者同士や参加者同士で意見交換を行える場があると、さらに学びが深まるのではないかと思いました。
今後も継続的に実施されることを期待しています。

◎少しでも教員の負担の軽減になったと思う。

◎学校の先生に代わって携わる事の責任感を感じた

◎これまで指導に携わる機会がなかった中で、地域クラブ活動の指導という貴重な機会をいただけたことに、まず感謝の気持ちがあります。実際に指導に関わることで、現場での声掛けや関わり方、運営面での工夫など、多くの学びがあり、大変貴重な経験となりました。将来的に指導者として関わっていく立場を目指す中で、自身の課題や今後身につけるべき点を知ることができ、非常に勉強になったと感じています。

▲回数が少なく、指導の継続性が保てない。

▲まず指導回数が多くないことが一点、もう少し回数を増やした方が教員の負担軽減になると感じた。
また、謝金ももう少しあげてほしい。

▲当日になっても参加の有無を登録いただけないケースが何度かあり、運営上、人数把握や準備の面で対応に困ることがあった。

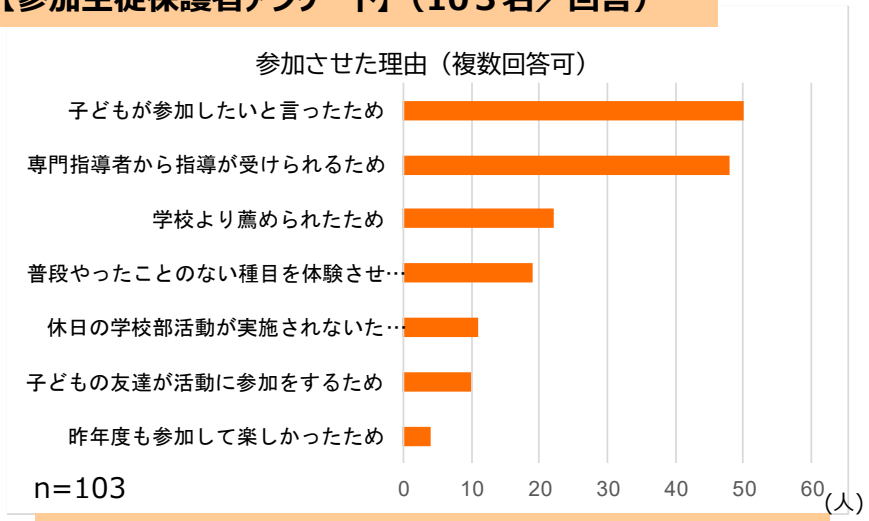
▲スクール内で生徒同士が積極的にコミュニケーションを取っている様子を見かけることがなく、全体の雰囲気づくりや交流面に課題を感じた。指導者から声掛けを行い、会話のきっかけづくりなどの働きかけは行っているが、さらなる工夫が必要。

2.実証内容と成果⑥

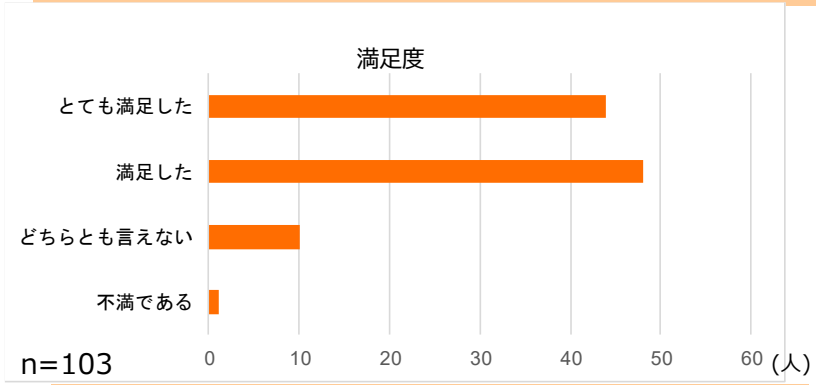
スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

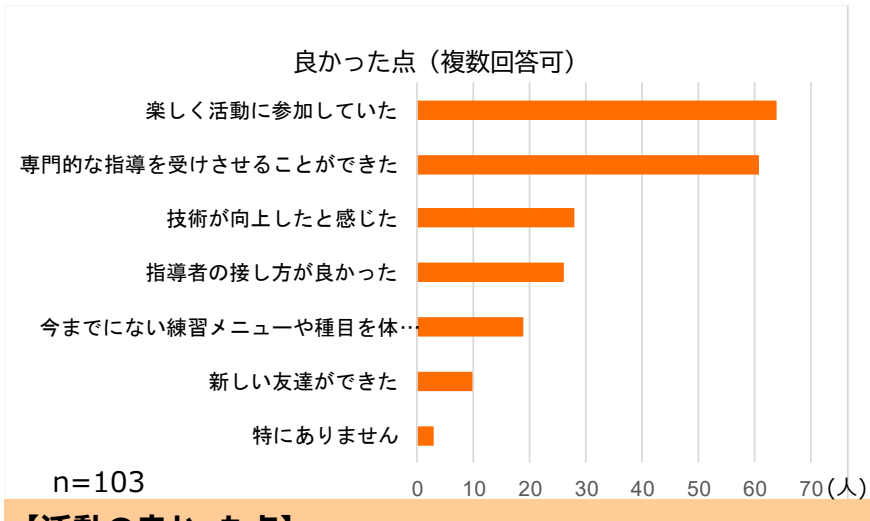
【参加生徒保護者アンケート】（103名／回答）



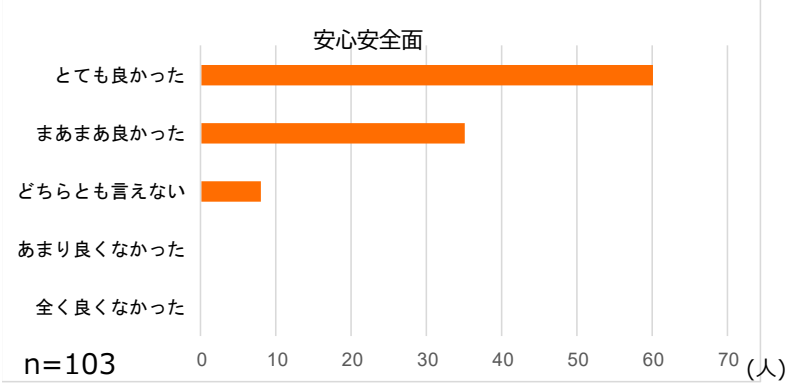
【参加理由】
①子どもが参加したいと言ったため　②専門指導者から指導が受けられるから　③学校から薦められたから



【活動の満足度】 とても満足・満足89.3%



【活動の良かった点】
①楽しく活動に参加できた　②専門的指導が受けられた
③技術が向上した

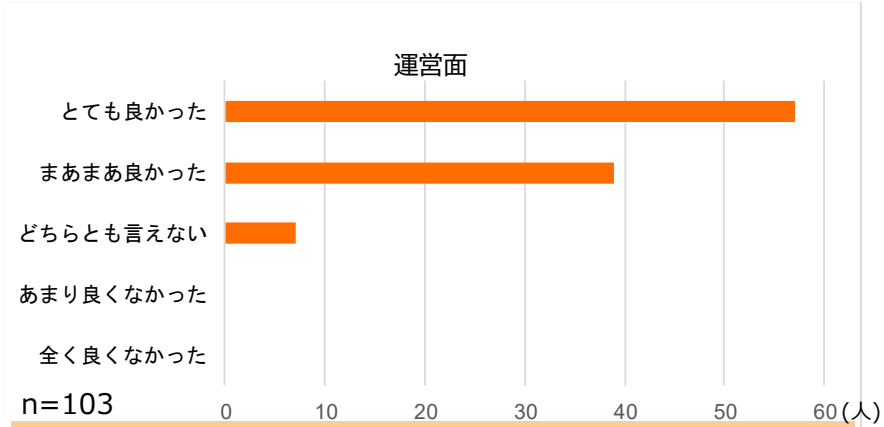


【安心安全面の対応】 とてもよかった・よかった92.2%

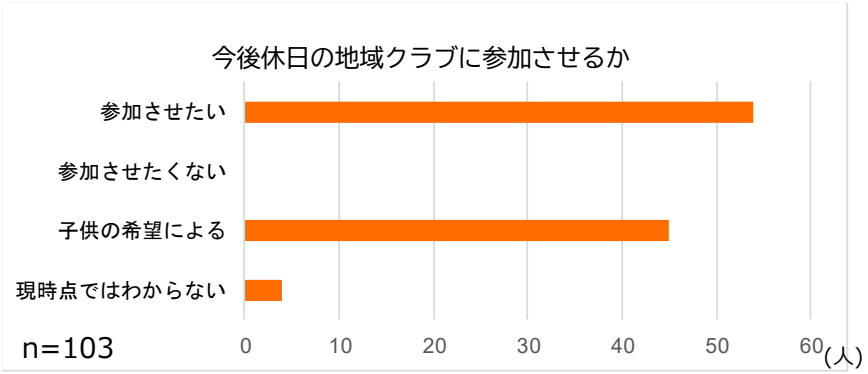
2.実証内容と成果⑦

スポーツ庁

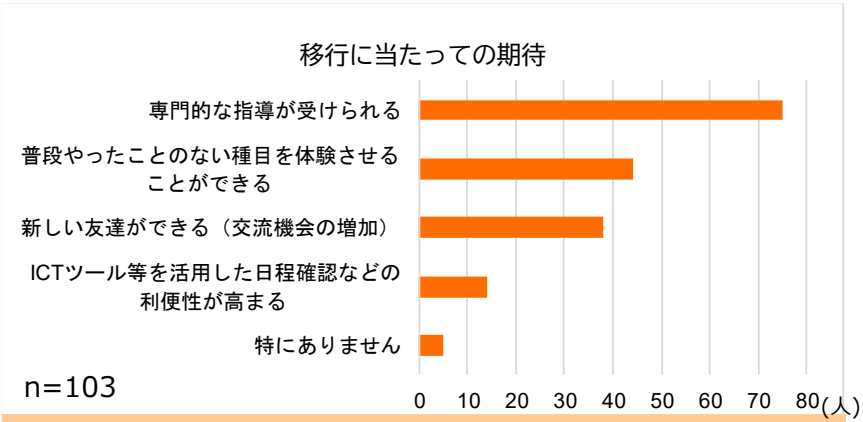
アンケート結果・参加者/関係者の声



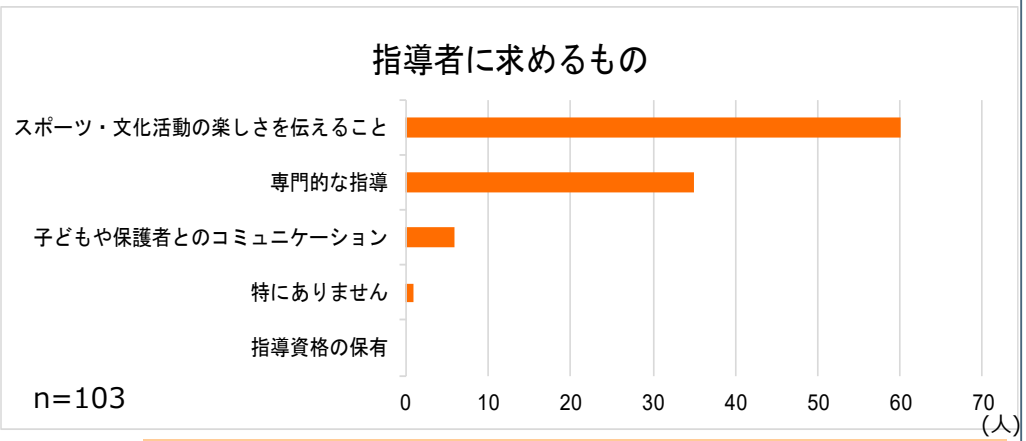
【運営面】 とても良かった・まあまあよかった93.2%



【今後の参加について】
①参加させたい ②子どもの希望による



【地域クラブ活動へ期待すること】
①専門的な指導が受けられる
②普段やったことのない種目を体験できる

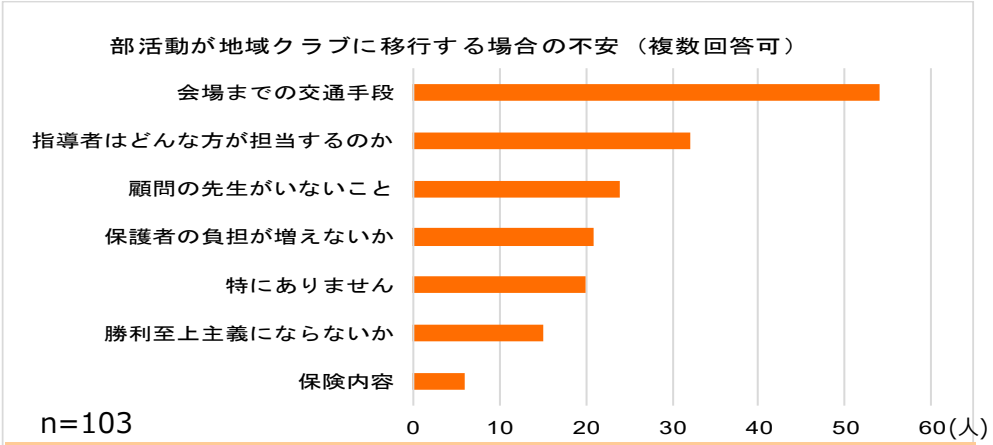


【指導者に求めること】
①楽しさを伝える ②専門的な指導

2.実証内容と成果⑧

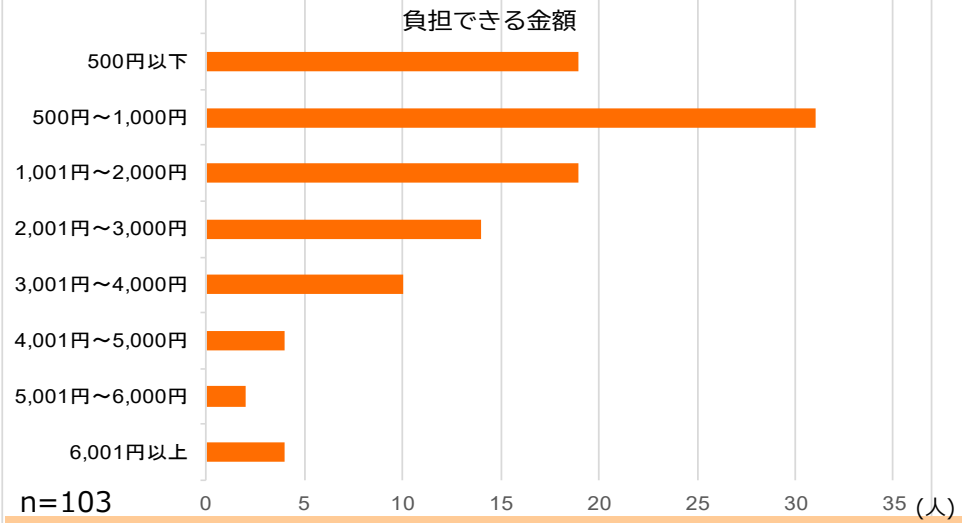
スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声



【地域クラブ活動へ移行する場合、不安な面】

①会場までの交通手段　②指導者の人材　③顧問の教員不在



【保護者が負担できる金額の目安（月額）】

①500円～1,000円　②（同数）500円以下・1,001円～2,000円

【保護者の意見（自由記述）】

◎とても良い取組みと思いますので継続していただけるとありがたいです。

◎今回このような貴重な体験ができて大変よかったです。ありがとうございます。体験だけで終わるのは勿体無いと思うので、また活動していただけると嬉しい限りです。

◎初めて参加したのでもっといろんな人が知ると良いと思った。もっと早くから知りたかった。

◎大学生も、指導に参加してもらい話しやすく楽しかったようです。

◎指導者に専門的な知識を教えて貰えるのも子供にとってはやり甲斐がありますが、その指導者に褒めて認めて貰えたことでもっとやり甲斐を感じているみたいです。

◎交通の便が限られている地域での会場選びが難しいことと思いますが、少子化の中スポーツをしたい子供達にとっては無くてはならない活動になると思います。よりよい活動方法を模索しながらも続けて頂けることを願っております

▲参加者が少なかったように感じる。地域クラブ活動がある日は、その地域の学校の部活動を休止するなど、既存の部活動からの移行措置が必要と考える。

▲生徒はベースに学校生活があることを十分理解した上で、指導やスケジューリングに努めて欲しい。教育者ではない方が指導することについて、最も危惧する点です。部活動はあくまで教育活動の一環であり、それを放棄しようとする教育界に最も問題がありますが、その責務を代わりに担うのであれば、生徒を預かる覚悟をもってもらいたい。

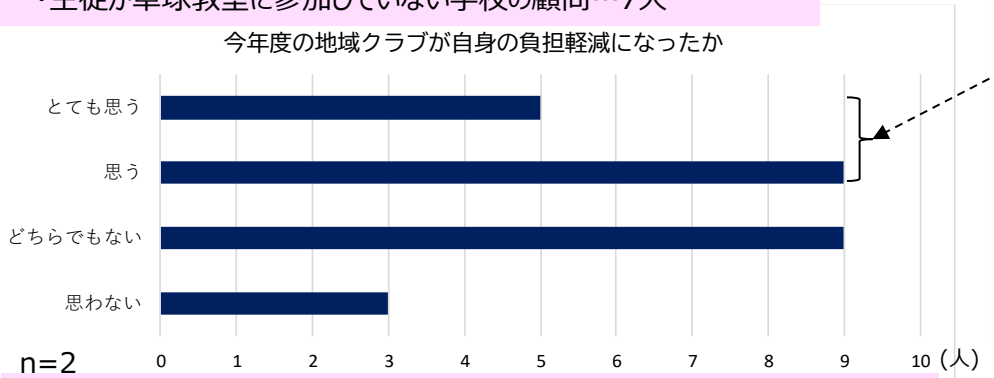
2.実証内容と成果⑨

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

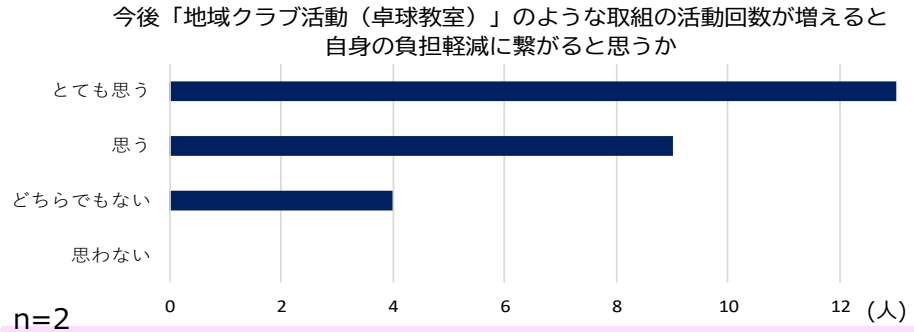
【卓球部顧問教職員アンケート】（２６名／回答）

○卓球部が設置されている学校12校へ回答依頼。
○卓球部顧問26人から回答
○26人のうち、
・生徒が卓球教室に参加している学校の顧問…19人
・生徒が卓球教室に参加していない学校の顧問…7人



n=26

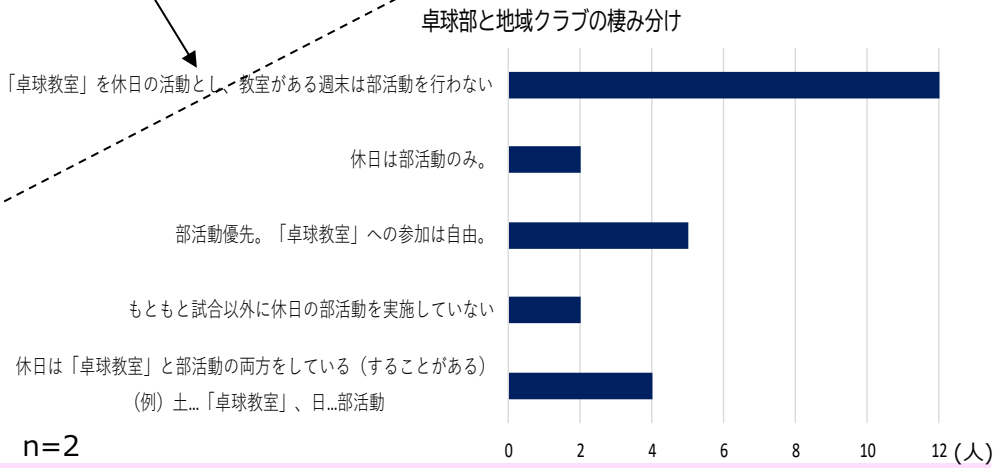
【今年度の卓球教室が自身の負担軽減につながったか】
とても思う・思う53.8%（14人）※参加校顧問19人のうちの14人



n=26

【卓球教室のような取組が増えると負担軽減につながると思うか】
とても思う・思う84.6%

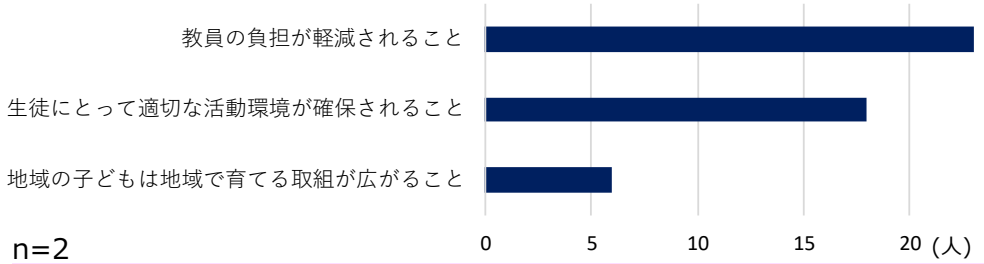
「卓球教室を休日の活動とし、卓球教室がある週末は部活動をしない」と回答した顧問全員が、負担軽減を実感している。



n=26

【卓球部と地域クラブ（卓球教室）との関わり方】
・48%…卓球教室を休日の活動とし、部活動はしない
・44%…「休日は部活動をする」・「卓球教室＋部活動」

休日の学校部活動を地域クラブ活動に移行していくことに対し、どのようなことに期待しているか（複数回答可）



n=26

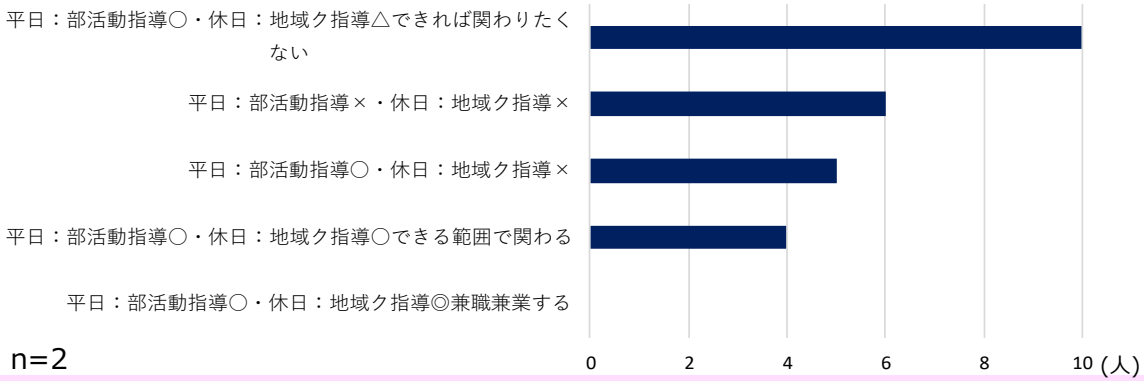
【休日の部活動を地域クラブに移行することについて期待すること】
①教員の負担軽減88.5%　②生徒にとって適切な活動環境確保69.2%

2.実証内容と成果⑩

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

平日の学校部活動や休日の地域クラブと自身の関わり方について、自分の考えに近いもの



n=26

【平日の部活動・休日の地域クラブとの関わり方について、自分の考えに近いもの】

①40% 平日は学校部活動の顧問として関わるが、休日は地域クラブ活動にはできれば関わりたくない

②24% 平日の学校部活動にも休日の地域クラブ活動にも関わらず、学習指導や生徒指導等に力を注ぎたい

③20% 平日は学校部活動の顧問として関わるが、休日は地域クラブ活動には関わりたくない

【卓球部顧問の意見（自由記述）】

◎専門の顧問でない教員にとってはありがたい場だと考える

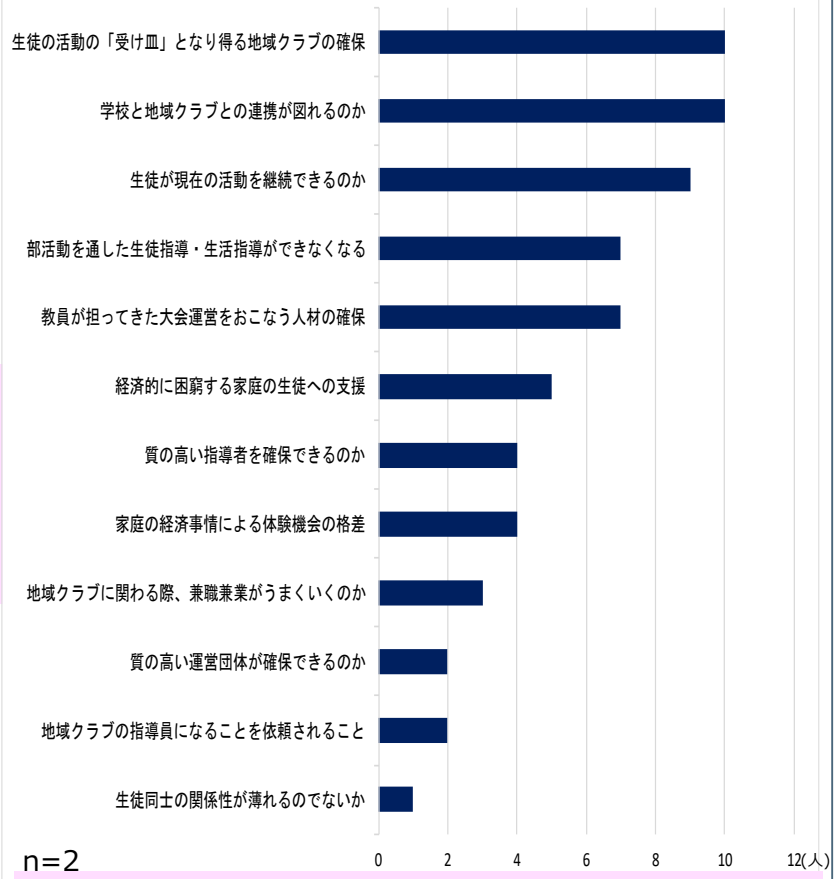
◎部活動の地域移行のおかげで時間にゆとりができており、ありがたい。
今後も地域移行がしっかりと広がっていくことを期待している。

◎部活動は生徒指導面での役割が非常に大きい。学級担任の言うことは聞かなくても部活動の顧問の言うことはよく聞くことも多々ある。しかしあまりにも教員のハードワークが過ぎるため、教育現場の崩壊がおきつつあり、積極的な地域移行が必要（忙しい先生は忙しく、暇な先生は暇という現実もあるが）

▲卓球教室に関係なく部活動を行っていたので負担軽減には至っていない

▲市として推進するのならば、１つの競技だけでなく、他競技も進めるべき

休日の学校部活動を地域クラブ活動に移行していくことに対し、心配なこと
（複数回答可）



n=26

【休日の学校部活動を地域クラブに移行することに対し、心配なこと】

①40%「受皿」となる地域クラブの確保

②40% 学校と地域クラブとの連携

③36% 生徒が現在の活動を継続できるか

2.実証内容と成果⑪

スポーツ庁

参考資料





【卓球教室】






【ライフル射撃教室】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和４年	令和５年	令和６年	令和７年
協議会設置・検討開 始／実態調査／教職員への周知／生徒・保護者へ周知 説明／関係機関へ の周知と協力依頼／生徒・保護者・教職員 へ意向調査／各競技 団体へ協力意向調査／各競技団体と連携し 指導者派遣依頼／ 活動場所調整／学校施設開放依頼と調整	各競技団体と連携し 指導者派遣依頼／活動場所調整／学校施設開放依頼と調整／安全安心な運営体制構築／地域クラブ活動の開始	前年度の課題等を検討し、地域クラブ活動を実施	前年度の課題等を検討し、地域クラブ活動を実施

●協議会設置/検討開始

各競技団体代表・体育施設代表・学校代表・体育連盟代表・市教委・市文化ｽﾎﾟｰﾂ振興課等が集まり、それぞれの立場から意見交換できた。

●教職員への周知と実態調査（現状把握）

市内中学校の部活動の現状を調査し、協議会で報告したことで、持続可能な部活動の在り方を検討する上で、より具体的にイメージできた。

●生徒保護者・各競技団体へ周知説明

生徒・保護者・各競技団体（24競技）・各地区体協（24地区）に部活動の現状を含め、地域移行に関わる国の動きや対応について、文書を配布し、理解と協力を求めた。地区体協からは「高齢化による運営の難しさ」等で具体案が進まなかった。

●生徒・保護者・教職員へ意向調査 市内全中学校にｱﾝｹｰﾄを依頼し、各自二次元ｺｰﾄﾞから回答してもらった。 自由記述の欄を設けたことで、様々な意見を集約することができた。

●各競技団体へ協力意向調査 各競技団体に、協力可能な内容（指導者派遣・活動場所や活動機会の 提供）の意向を確認できた。意向調査を通し、具体的な協力内容が確認 でき、マッチングの資料となった。

●各競技団体に指導者派遣依頼

指導者確保に関しては各競技団体の協力が必要であるため、各競技団体への 説明等を丁寧に行い、まずは体験教室という形で、少しでも前に進められるよう 交渉できた。

●活動場所確保のため各施設管理者と日程調整

公共施設の空き状況等を確認し、指導者との日程調整をしながら、施設確保 のために調整を行った。

●学校施設開放に向け協力依頼

学校施設の有効活用については生徒管理や他校生との交流を想定した課題 が多くあった。校長会でも丁寧に説明し協力依頼し、施設管理（鍵の施錠） 体制構築に向け関係者と学校訪問し理解促進に努めた。

●安全安心な運営体制構築

ICTツールを活用し、参加生徒・保護者・指導者との情報交換をスムーズにで きるような体制づくり（出欠管理周知・活動内容のお知らせ等）ができた。

●指導者の資質向上対応

指導者には指導研修として「指導ﾏﾆｭｱﾙ」を配布し、指導にあたっての諸注意を 指導するとともに、各自でeﾗｰﾆﾝｸﾞによる研修を受講できる体制を活用し、思春 期の子供たちとの関わり方やハラスメント防止等についても詳しく周知できた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【徳島市・徳島市教育委員会　地域展開（地域スポーツクラブ活動）推進にむけた環境整備（案）】

部活動改革の改革実行期間　（前期）

	2026年度（令和8年）	2027年度（令和9年）	2028年度（令和10年）	
	補助事業活用 **徳島市の実情に応じた地域スポーツクラブ活動の体制整備と円滑運営をサポート**			
徳島市教育委員会	■地域クラブ活動実施 ■協議会設置 ■部活動地域展開方針等の策定 ■体制整備・制度設計 ■教職員への周知 ■生徒・保護者への周知・説明 ■関係機関（各競技団体等）への周知 ■実態調査（学校） ■協力調査（各競技団体） ■協議会で今後の検討	■協議会実施 ■認定地域クラブの実施と検証 ■教職員への周知 ■生徒・保護者への周知説明 ■関係機関（各競技団体等）への周知 ■調査（学校・各競技団体） ■協議会で今後の検討	■協議会実施 ■R9の検証を生かし、持続可能なモデルの検証 ■協議会で今後の検討	**中間評価**
徳島市文化スポーツ振興課				